

4-(1)-⑮ 社会貢献・連携活動の状況

■美術館大学センター

山形にアートを通じて人々の交流の場を創造することを目的に隔年で開催している山形ビエンナーレは、令和2（2020）年度に第4回目の開催を予定している。医師でありながら芸術・文化への造詣が深い稲葉俊郎氏を第4回の芸術監督に迎え、開催概要の骨格を策定した。「こころ・からだ・芸術」というユニークな視点を取り入れた、地域と大学が共に創りあげる芸術祭を展開する。

■社会人講座（生涯学習プログラム）

次世代の地域経営を想定した経営戦略構築のプロの養成を目指し平成27（2015）年に開講した「都市経営プロフェッショナルスクール」は、令和元（2019）年から新たに「公園専門課程」及び「エコタウン専門課程」を設置し、50名の定員を超える79名（連携団体募集分を含む）の受講者を迎えた。また、当該スクールの修了生がそれぞれの地域で実践した公民連携活動が賞を獲得するなど、これまでの成果が表れ始めている。講座の修了生らが設立した「NPO 法人自治経営」では、現場で培ったノウハウやナレッジを集積・ネットワーク化し、ケーススタディブックを刊行した。

■全国高等学校デザイン選手権大会（デザセン）

高校生の視点で、社会や暮らしの中から課題を見つけ、その解決方法をわかりやすく提案することで、高校生にデザイン思考の浸透を図る「デザセン」は26回目の開催となった。

昨年度、25周年企画として行ったこれまでの出場者のインタビューの内容を大学HPやSNSで発信し、高等学校における探究型学習との関連性の周知に努めた。それらの取り組みにより新規出場校の増加、とりわけ探求型学習に取り組んでいる高校の新規参加の拡大に繋がり、応募高校数は昨年度より15校多い94校、応募チーム数は昨年度より100チーム多い1,010チームとなった。

当日の大会の様子は、これまでのニコニコ生放送での配信に加え、YouTubeでの配信も行い、1万人以上の視聴者に対しデザイン思考の考え方を発信した。

■地元関係機関との連携事業等

山形県、山形市、山形大学、山形すまい・まちづくり公社及び本学が、「準学生寮整備に関する協定」を締結し、山形市内中心部の空き物件をリノベーションした準学生寮「山形クラス」の整備事業に着手した。国の「セーフティネット住宅整備事業」を活用するなど、日本初の事業スキームとなったことから社会の注目を集め、全国紙やwebニュースなどにおいて広く報道された。

初年度は七日町（個室型）及び香澄町（シェアハウス型・男子学生用）に計2戸の物件が完成し、25名の学生が入居している。入居学生は、町内会の朝掃除に参加するなど、地域と交流し、地域活性化の一役を担っている。